

## 仲の良いペア、オジロワシ

今シーズンも、オジロワシのペアが大仙市に飛来した。11月9日通称ナダラに初飛来し、翌日にはもう1羽がやって来た。昨シーズンの初飛来は10月29日であったので、10日遅れである。

冬鳥のコガモやマガモなどの初飛来はいつもより遅めであり、北国の気候が影響しているのだろうか。魚類を主食としているオジロワシ。主な繁殖地は遠く離れたロシアの亜寒帯であるが、毎年玉川と雄物川に遡上する鮭を狙ってこの時期にやってくるのだ。



ぴったりと寄り添い、何を語っているのでしょうか。

玉川、雄物川合流地点は、オジロワシの撮影ポイントとなっている。また、玉川左岸では鮭の自然産卵が見られることから、オジロワシの餌場となっているようだ。

ナダラの急斜面に生える大木の枝に、2羽のオジロワシが見つかった。いつもはお互いに離れた場所に留まっているが、今日は急接近である。こんなにくっついて、お互いを見つめ合っているようです。仲の良いつがいです。



普段はこの程度の距離感であるが。



メス、成鳥と思われる。

雄物川鮭増殖漁業生産組合が1895年にサケのふ化放流を始め、今年で127年。長い歴史である。ここで放流された稚魚が再び生まれた川に戻ってくるのは、約4年後と言われる。

鳥類のオジロワシと魚類の鮭は、ロシアやオホーツク海、カナダ、ベーリング海など地球的規模で命を繋いできました。鳥と魚の自然サイクルが大仙市で繋がっていたのです。感動ものです。サケもオジロワシも、かなり古い時代から繰り返してきた自然の営みではないでしょうか。



オス、若鳥でしょうか。



浅瀬で産卵するサケ。